

福島県会津若松市。東京から直線距離で約200キロ、福島県西部に位置する面積382.99平方キロ、人口12万人弱のこのまちは、県内でも有数の知名度を誇る、言わずと知れた観光都市である。鶴ヶ城、白虎隊の悲劇、温泉、ソウスカツ丼……。会津若松を象徴する事物は枚挙にいとまがない。自然と歴史に彩られた情緒豊かなまち。そんな会津若松が今、意外にも時代の最先端をいく取り組みで注目を集めている。

ICTを通じて  
産学官が連携

その取り組みの名称は「スマートシティ会津若松」。東日本大震災後の13年より会津



会津若松市のシンボルの鶴ヶ城。歴史と伝統を大切にしながら、スマートシティを目指しており、オフィスビル「スマートシティAICT」はこの城から程近い北出丸大通りにある



「スマートシティ会津若松」を象徴する「スマートシティAICT」。19年4月に開所した3階建て・延べ床面積4600㎡のオフィスビル。昨年12月には入居企業が31社となり、満室となった

ICTへのICT関連企業の集積を目指し、企業誘致を進めてきた。開所に当たってはその継続性を不安視する声もあり、開所時は入居企業17社というままです。船出であったが、昨年12月にはとうとう入居企業31社になり満室が報道された。

飛躍のきっかけとなったのは、コロナ禍における「スマートシティAICT」への注視がきっかけ。福島支所／不動産鑑定士・浅川和徳

## 新常態の追い風を受けて

ICTの取り組みで注目を集める歴史のまち

一般財団法人日本不動産研究所

## ニューノーマル最前線

不動産の「変」と「不変」

### 第13回 福島県会津若松市

若松市が標榜しているICTが次々と集結するホットスポットとなっている。彼らが入居するオフィスビルは「スマートシティAICT」。まちのシンボルの鶴ヶ城に程近い北出丸大通りに位置するこのビルは、19年4月に開所した3階建て・延べ床面積4600㎡のオフィスビルであり、「スマートシティ会津若松」を象徴する建物の一つである。

昨年12月には満室に

市は「スマートシティAICT」であった。

### 会津若松の変と不変

ニューノーマル時代の到来である。コロナ禍により感染症や災害対策としてのリスク分散の必要性が高まったこと、更には既存の概念が崩れリモートワークが急激に普及したことで、企業は新しい形態のオフィスを模索せざるを得なくなった。その需要の受け皿となったのが、時代に先行してICTを推進してきた「スマートシティ会津若松」であり「スマートシティAICT」であった。

このように時流に乗りICTで注目を集めている会津若松であるが、一方で周辺地価への影響はそれほど確認できず、今のところ地域経済への波及効果は限定的な模様である。また、主要産業である観光業へのコロナ禍のダメージは計り知れず、地元経済は厳しい状況が続いている。

歴史と伝統を大切に守りながら、「スマートシティ」として変わりゆく会津若松。ニューノーマルの追い風を受け一躍脚光を浴びた「スマートシティ会津若松」は、少子化とコロナ不況にあえぐ地方都市の救世主たり得るのか。これからの会津若松の挑戦を注視していきたい。